

ミニ廃墟再生マルシェが開催されました



▲草が生い茂る旧ひがき寮



▲整備され多くの来場者で賑わう旧ひがき寮



このイベントは令和3年9月22日より始動した、みなかみ町、株式会社群馬銀行、株式会社オープンハウスグループ、国立大学法人東京大学大学院工学系研究科が連携して進める「産官学金連携まちづくり事業」の一環として

10月29日(土)～30日(日)、水上温泉街「旧ひがき寮」の廃屋を利用したイベント「ミニ廃墟再生マルシェ」が開催されました。「みなかみの裏路地」に出会う、ほりだしもの市」をテーマに15店舗が出店し、2日間で約1300人が訪れました。奥に向かって狭くなっていく中庭に面した縁側を店のブースに見立て、「懐かしくもあり、どこか新しい」会場が演出されました。各物販ブースでは、廃業した旅館で使用されていた瀬戸物や着物、みなかみの草木で染めたニットや小物、レトロ文房具やキャンドルなど、みなかみに由縁のある品々が出品されました。飲食ブースでは、コーヒー、クラフトビール、ホットドッグ、おにぎり、スープ、チョコレートなど地元の素材を使ったグルメが提供されました。内覧ブースでは、東大生による温泉街周辺の模型やパネル展示が行われました。また「旧ひがき寮がこんな場所になったらいいな」「温泉街にこんな場所があったらいいかも」という来場者のアイデアを書いた付箋が掲示されました。

10月29日(土)～30日(日)、水上温泉街「旧ひがき寮」の廃屋を利用したイベント「ミニ廃墟再生マルシェ」が開催されました。「みなかみの裏路地」に出会う、ほりだしもの市」をテーマに15店舗が出店し、2日間で約1300人が訪れました。奥に向かって狭くなっていく中庭に面した縁側を店のブースに見立て、「懐かしくもあり、どこか新しい」会場が演出されました。各物販ブースでは、廃業した旅館で使用されていた瀬戸物や着物、みなかみの草木で染めたニットや小物、レトロ文房具やキャンドルなど、みなかみに由縁のある品々が出品されました。飲食ブースでは、コーヒー、クラフトビール、ホットドッグ、おにぎり、スープ、チョコレートなど地元の素材を使ったグルメが提供されました。内覧ブースでは、東大生による温泉街周辺の模型やパネル展示が行われました。また「旧ひがき寮がこんな場所になったらいいな」「温泉街にこんな場所があったらいいかも」という来場者のアイデアを書いた付箋が掲示されました。



▲来場者のアイデア
掲示



▲旧ひがき寮の模型



▲ライトアップされた旧ひがき寮

て企画された社会実験イベントです。旧ひがき寮を水上温泉街で活用・再生していくための第一歩として、東京大学大学院都市デザイン研究室のチームが中心となり、草刈りやダムの流れ木を利用したウッドチップを敷き詰めるワークショップを経て、本イベントは企画・開催されました。今後、「温泉街の暮らしを考える実験室」「新たなチャレンジを応援する場」として旧ひがき寮が活用・再生されることを期待されます。

上毛高原駅40周年感謝祭が開催されました



▲子どもバスケットボール教室



▲パラリンピック競技ボッチャ体験



▲抽選会に並ぶ来場者

町では上毛高原駅開業40周年を記念して、11月12日(土)～13日(日)の2日間で上毛高原駅40周年感謝祭を開催しました。

駅特設会場では、地元名産品があたる抽選会やものづくりワークショップが行われました。抽選会では行列になる場面もあり、多くの人で賑わいました。

駅構内では、パラリンピック競技「ボッチャ」体験や皇茶のほか、みなかみの水を使った利き水体験が行われました。地域によって水の風味に違いがあり、驚きの声が上がりました。

コンコースでは、キッチンカーの出店のほか、MINAKAMI TOWN EXEによるエキシビジョンマッチや子どもバスケットボール教室が行われました。プロ選手の迫力満点のプレーに会場からは歓声が上がりました。また、子ども達にとっては、プロ選手から直接学べる貴重な体験となりました。



▲利き水体験



▲呈茶の様子



▲キッチンカーグルメを楽しむ来場者



▲会長あいさつをする阿部町長

地域に開かれたダム全国連絡協議会 第26回現地交流会

11月10日(木)～11日(金)の2日間で、「地域に開かれたダム」全国連



▲そば打ち実演の様子

絡協議会 第26回現地交流会が開催されました。本会は地域の創意工夫を活かし、ダムが地域にとつてより密着した施設となり、ダムの利活用によって地域振興が推進されることを目的として活動しています。

情報交換会では、地域におけるダムの役割や活動について国土交通省、町観光商工課、猿ヶ京ネットワークより発表がありました。その後、相俣ダム施設等見学が行われました。

今後もみなかみのダムが首都圏の人々の生活を支え、地域にとつても有効活用されることが期待されます。

みなかみ町産の新そばが味わえる「秋の新そばまつり」が12月11日(日)まで町内13店舗で開催しています。

初日のオープニングイベントでは、月夜野はーべすとで利根実業高校生物生産科食品文化コースの出身者によるそば打ちが披露されたほか、新そばや天ぷらが提供されました。

開催期間中、対象店舗でそばを注文された方には、町内4カ所の農産物直売所で使える割引券が当たるスクラッチくじをプレゼントしています。この機会にぜひ良質なそば粉で作った新そばをご賞味ください。

みなかみ秋の新そばまつり開催中

内田湘大選手ドラフト2位指名あいさつ



▲高山健一スカウト(左)、内田湘大選手(右)

10月26日(水)、プロ野球広島東洋カープからドラフト2位で指名された利根商の内田湘大選手が広島の高山健一スカウトから指名あいさつを受けました。

内田選手は「身が引き締まる思いで、プロでも頑張ろうという気持ちです。厳しい練習を楽しみながらうまくなりたいです。」と意気込みを語ってくれました。プロでは長打を打てる三塁手としての活躍が期待されます。

町内の忠霊塔を参拝



▲関係者らによる慰霊参拝の様子

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に続き今年度も開催が中止となった「みなかみ町戦没者追悼式」の代替として、11月15日(火)、町内3地区(町組、湯原、湯宿温泉)の忠霊塔を巡回し、慰霊参拝を行いました。当日は、阿部町長をはじめ、石坂議長、高橋副議長、遺族会代表者4名にご参列いただき、戦争で尊い命を落とされた方々のご冥福をお祈りしました。

荒井正昭さんに紺綬褒章を伝達

9月22日(木)、町役場町長室において「紺綬褒章伝達式」が行われ、荒井正昭さんに宮崎副町長から褒章、章記および木杯が伝達されました。

この紺綬褒章は、荒井正昭さんが、令和3年10月に現金1億円の寄附をさ

れた功績に対し、天皇陛下から授与されたものです。

※紺綬褒章は、国の栄典制度の1つで、公益のために私財を寄附された個人または団体に授与される褒章です。

第45号

まちづくり協議会だより

まちづくり協議会事務局(総合戦略課) ☎0278(25)5032

月夜野支部の活動

月夜野支部では、コロナ禍による引きこもり、生活の閉塞感防止を目的として、自宅から外に出て多くの仲間と語らう場を設けるために、参加者の三密回避を徹底したうえで二つの事業を実施しました。

一つ目は、歌人の先生をお招きして参加者間の会話や脳トレをメインにした短歌の作成方法や、短歌の意義、手法などをご指導いただきました。参加者からは大好評で次の機会にもぜひ参加したいという要望と期待がありました。

二つ目は身体を動かす事業として、月夜野地域在住の老若男女で構成した4団体によるソフトボール大会を開催しました。中学生や高校生も参加して幅広いコミュニケーションが図られ、将来に向けてまちづくり組織の裾野が広がり、大いに盛り上がりました。

月夜野支部長 番場正夫



▲短歌によるコミュニケーションと脳トレ講習会



▲ソフトボール地区対抗戦

地域おこし協力隊の活動

一般社団法人FLAP所属

元井夏海さん

皆さん、初めまして！元井夏海と申します。このたび地域おこし協力隊として、一般社団法人FLAPに入職させて頂きました。移住・起業支援のお手伝いや、地域の情報発信、後閑駅ナカ学習室の運営などに携わせていただいております。

神奈川県川崎市出身で、前職はホテルで働いていました。趣味は邦ロック、映画、マンガです。アウトドアな趣味がなかったので、移住を機にラフティングやスキーに挑戦したいです。先月は三峰山のパラグライダーの浮遊体験をしてきました！数秒間ですが、風の力で自分の身体が浮いた時の興奮は忘れられません。

移住して1カ月ですが、みなかみ町は居心地がいいです。今までお会いした方々に本当に良くしていただき、「みなかみに来てくれてありがとう、頑張りなさい」と言われるとジーンとくるものがあります。他の移住者もそんな人の良さに惚れこんで来ているので、フレンドリーな方が多く、類は友を呼ぶとい



▲りんご農園で場所をお借りし、交流イベントを主催しました



▲谷川岳ロープウェイで天神平まで行きました

う言葉をつくづく実感します。とは言えまだごく一部の方にしか知り合えていないので、皆さまにお会いできれば嬉しいです。

今後、後閑駅ナカ学習室を活用し、学生が大人と接点を作れる、みなかみ町の仕事を知る機会を得られるような交流イベントを開催しようと考えています。まだ企画段階ですので詳しくお伝えできませんが、今後SNS等で発信するので、ご覧いただけると嬉しいです！

至らぬ点多いかと思いますが、何卒よろしくお願いたします！

株式会社水の故郷所属

天方悠人さん

みなさまこんにちは。道の駅みなかみ水紀行館を拠点に活動しております、天方悠人です。

今年4月に地域おこし協力隊として活動を始めてから半年と少しが経ちました。

【いろいろな部署を回り、学ぶ】

活動初年度の第一の取り組みとして、館内の各部署を一定期間ごとに回る計画で、半年のうちに観光案内所、売店、事務所を転々とし、この秋露店にやってきました。露店では川魚の塩焼きや玉こんにやく、焼きまんじゅうなどを販売しているのですが、私は主に川魚の塩焼きを担当しました。

魚屋さんから仕入れたイワナとマスを、捌いて串打ちして塩を振って焼く。シンプルでも奥が深く、塩の振り方や焼き目の付き具合といった細かいところまで妥協せず注意深く面倒をみるとどうやらおいしく焼けるようで、売りきれると嬉しいし、お客さまからおいしいと言ってもらえると、とても嬉しいです。「お客さまに喜んでいただける喜び」を知ることができました。

露店の次は食堂に移る予定です。どの部署でも全

く新しい経験ができ、刺激に満ちた日々を送っております。

【旅行業の資格を取得しました】

また、この秋、私は旅行業務取扱管理者の資格を取得しました。この資格を持つことで、水紀行館で旅行代理店と同様のサービスを提供できるようになり、これは町内観光の発着地としての水紀行館の役割を強くするものと考えております。

これをみなかみ町の活性化に向けた足がかりとし、地域のみなさまと連携しながら施策立案と事業稼働に励んでまいります。



▶秋露店の様子